

病虫害発生予察指導情報

(カキ・炭疽病)

平成29年9月14日

鳥取県病虫害防除所

1. 情報の内容

向こう1か月の気象予報（9月7日発表）から、今後、カキ炭疽病の発生に好適な気象条件となることが予想されます。また、9月17日には鳥取県に台風18号が最接近する見込みであり、その影響によって本病の発生が助長されると予想されます。降雨前の予防散布を心がけて、本病の発生を防ぎましょう。また、防除暦に従った防除が実施できなかった場合や散布間隔が長くなる場合には追加防除を検討しましょう。

2. 情報の根拠

- (1) 昨年、一部の地域で発生量がやや多かったことから、伝染源となる発病枝等がやや多いことが見込まれる。
- (2) 昨年の果実における被害増加要因は、9月の台風や長雨による影響が大きいと推察された。
- (3) 向こう1か月の気象予報によると平均気温は平年に比べて高く、降雨量は平年並と予想されており、カキ炭疽病菌の感染しやすい気象条件（平均気温が20℃以上で、降雨がある）が多くなると見込まれる。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 9月は、本病の重点防除時期である。散布間隔が長くならないように注意し、降雨前の予防的な防除を徹底する。なお、発病後の防除では、十分な防除効果は期待できない。
- (2) 防除は、各地域の防除暦に従って実施する。
- (3) 防除薬剤は、ストライド顆粒水和剤の3,000倍液、ナリアWDGの2,000倍液などを使用する。
- (4) 発病果実の周辺には、伝染源となる発病枝や他の発病果実がある可能性が高いので、見つけ次第切除して園外処分する。
- (5) 発病部位が伝染源となるため、できる限り台風18号の接近前に、ほ場を見回って処分しておく。